

Always 「K2P2エッセイ」～クミジョとクミダンのるつぼ～

【第4回】 アンビシャス

本田 一成

●武庫川女子大学教授 K2P2共同代表

連合が2004年から続けてきた「私の提言」事業の2023年第20回応募論文で栄えある「記念賞」を射止めたのは、白井桂子さんと田中美貴子さんの「クミジョは大志を抱いている Kumijo has ambitious」であった。

タイトルに「クミジョ」が入っているからというわけではないが、快挙であるし、選考委員会の良心を感じた。クミジョに関する先行研究は乏しいから、とても勉強になる。

クミジョが痛感していることを前面に出した構成、具体的な提案、クミジョを主語にした等身大のいきいきとした文章などが素晴らしい。こんなにすんなりと入ってくる提言を書けるとは。すんなり入っていけない労組のアンコンシャス・バイアスやマイクロ・アグレッション（MA）をひょいと飛び超えている。

全国で活躍するクミジョを守り、つなげ、安心して活躍する基盤を整えたいから提言する、という発想は飢餓感に似た焦りやいらだちや恐怖から来ている、という主旨は、そう言える場もなく、胸中になってしまっていたクミジョの気持ちそのものであろう。提言は、女性役員選出方法（ダイレクト・パリテ・システム）、女性の人権と家事応援策（ハウス・キープ・フォローシステム）、女性役員SNS（「#クミジョ」）である。アンビシャス！

これを機に「クミジョ・クミダン問題」をクミジョが分析する論考が他にもあるのかな、と調べてみたところ・・・あるじゃない。連合アカデミーのマスターコースや連合大学院の論文など、所属する組織の偏りやクミダンに対する付度はあるが、現役クミジョの職場視点が展開されている。OGたちの自伝的論考に基づく「クミジョ本」とは別の意味で、読み応えがある。それでもやはり点数が少ないし、クミダンが書く場合もあるがもっと少ない。

それならクミジョたちの点描を収録してクミジョ本が出せるんじゃないの？ よいものはよい、と評価できる教育文化協会に話を持ちかけてみようかな？ その出版記念にクミジョ・クミダン問題のシンポジウムを開催できないかな？ これらが実現して、私も書けるかも、きっと書ける、書いてみたい、とクミジョが思ってくれるなら、「私の提言」への応募や役員候補がもっと増える。そこでまたクミジョ本を出して・・・アンビシャス！ そんなアイデアを運んでくるのだから、やっぱり白井さんと田中さんの功績はとても大きい。

「私の提言」で受賞したクミダンから、「組織のみんなが喜んでくれてお祝い会やってもらっちゃったよ」と聞いたことがあるので、さっそく白井さんに、どうでした？ とたずねてみた。「いや、そーでもないよ」と、心中を察するに余りある言葉が返ってきた。筆力のある白井さんのことだから、しがらみがなくなり、自伝的論考が飛び出してくるのは間違いないような気がする。またクミジョ本が増える。

(続く)